

令和3年度第1回（第5期第4回） 新宿区産業振興会議 議事要旨

【日 時】 令和3年6月28日（月）午後6時～8時

【場 所】 B I Z新宿（区立産業会館） 研修室A

【出席者】 委員：植田、遠山、長山、笠井、横倉、青木、富田、望田、太田、遠藤、各委員

事務局：小泉文化観光産業部長、村上産業振興課長、出沼産業振興係長、吉田産業振興主査、
江下主任、山本主任、国分主事

【欠席者】 友成委員、松尾委員

【傍聴者】 2名

【配布資料】 省略

【内 容】

1 開会

2 議事

(1) 前回会議の振り返り

資料1に基づき、事務局より説明した。

(2) 新宿区産業振興会議第5期報告書（案）について

資料2に基づき、事務局より説明した。

(3) 地域商業活性化推進事業について

資料3に基づき、事務局より説明した。

3 主な発言内容

- ・ 倒産状況について、今回のコロナ禍において企業倒産件数として表れている数字はリーマンと比べると少ない。ただ、中小企業への影響が小さいのかというのではなく、件数が少ないのはそれなりの理由がある。早い段階で資金確保に動いた企業が多かったことや行政による金融支援がリーマンに比べると早く対応することができた。倒産に至る前に廃業したところが多かったということも理由に入るだろう。金融支援でいうと信用保証協会がかなり保証件数を増やしている。元金返済のタイミングで景気が良くなっていれば良いが、依然として景気が厳しいと、代位弁済が増えていくという次の危機が訪れる。
- ・ 資金が豊富な企業は問題なく景気回復の波に乗ってくるだろうが、今まで借入れでなんとか繋いできた小規模事業者は景気回復のときには資金が枯渇してしまっているだろう。そういうときに条件変更でまた利息弁済に切り替えていくなどの対応が必要。日本の景気回復は米国より半年ほど遅れるが、米国では木材がひっ迫し、運輸運送が需要に追い付かないなど一部物価が上昇する傾向が出ている。そうすると小規模事業者はさらに資金繰りが苦しくなってくる。今後回復期にどういった資金需要があり、どれくらい回復が見込めるかをできるだけ精緻にモニタリング・ヒアリングして対応できる仕組みを作っていかなければならない。
- ・ オリンピック、パラリンピックの開催によりコロナの感染者数が増えてまた緊急事態宣言ということになるのではないかと。日本の良さとしておもてなしという言葉が流行したが、この数年の間でそういった需要が減少したままでいくと、おもてなしという言葉だけが残って実際にはできなくなってしまう。外国人は他国にはない日本の一流のサービスを期待してくると思うが、それが

失われてしまうのが怖い。

- 旅行業はどんどん淘汰されている。去年までは区内で 19 番目に古かった当社が、いつの間にか 17 番目になっていた。オンラインツアーも開催しているが、利益を確保するのが難しい。GOTO トラベル事業を進めるのであれば、オンラインツアーにも補助金を出すと良いのではないか。
- ウッドショックにより木材の価格が上がっている。中小企業者にとって、なにか 1 つの事業をするときに価格が 1 割～2 割上がってしまうのは大変な状況である。リーマンショックの際、多くの建築業の職人が廃業し、その結果、建築コストが上がっている。職人はすぐには育たない。職人を育てるサポート制度があると良いのではないか。そういったサポートがないと単価が上がって、一般消費者への提供価格が全体的に上がっていくだろう。
- コロナ禍でテレワークが推奨されているが、新宿区にとって本当に好ましいかは疑問である。新宿区は立地が良く事務所物件が多くあるが、テレワークが進むとわざわざ新宿に事務所を構える必要がなくなる。テレワークが一般化すると空室が埋まらなくなり、貸しビル業は困っていくのではないか。
- 印刷業界は以前から業況が厳しかったが、コロナ禍で紙の出荷が減少した。一方で、出版は電子書籍等により増加している。従来、紙が提供していたものをネット上に頼っている。しかしネット上には信用できない情報もある。信用できるものは紙が作っている。
- 着物を作って染める会社として 100 年以上続けてきたが、コロナ以前から、着物を着る人が少なくなるだろうと予測し、着物を染める技術を転換してストールやネクタイを作ってきた。コロナ禍でアパレル業界が厳しくなったので、ほかの部材、木材やタイルに江戸小紋を染めて新しい商品を作った。コロナだからということではなく、企業として、常に新しいものを求めていかなければならない。
- DX はあくまでより良い社会、めざすべき社会を実現するための手段である。革新的なものは事業者の経験や蓄積、新たな知見でもって具現化していくが、先進都市東京の中の先進地域新宿として革新と創造を打ち出すのであれば、新たに生まれてきたものにおいても当然にサステナブルが入っていないなければならない。
- コロナ禍で産業振興プラン作成時の前提は崩れたが、事業革新や新たな価値創造が新宿区の中小企業がこれから生き残っていく上で不可欠だという考え方はぶれずに持っていかなければならない。コロナが収束すれば以前の状況が少しは戻ってくると思うが、どういう形で戻ってくるのか、そのときにどういった構造の産業や社会ができあがっていくのかは未知数である。状況がどうなるかははっきりとは言えないが、その状況の中でプランをつくる時に考えていたものをどうやって実現していくかということを来期に引き継いでいかなければならない。
- 来街者の増加を前提として区の施策がつけられてきたが、その前提が変わってしまった。コロナ禍における状況の変化は新宿区に限ったことではないが、サービス業や観光業、宿泊業が多くオフィス需要も多いという新宿区の産業構造ゆえにコロナの影響を特に大きく受けている。これまでの構造に依拠していた産業や企業が今後どうなっていくかは強い危機感をもって対応していかなければならない。

4 次回日程について (予定)

産業振興会議

日 時：令和 3 年 10 月

会 場：B I Z新宿

5 閉 会